第３回　河川レンジャー
大阪ブロック運営会議（R8.3.2）
参考資料－4

第２回 河川レンジャー大阪ブロック運営会議 議事要旨

日時：令和７年３月７日（金）１４：００～１６：１５

場所：中央流域センター

出席者：

委員	河合、上原、北田、宮田、荒木、酒井、久保、桑村、伊藤、岸田、道場、杉本、辻川、﨑谷、山口遼太、酒井
淀川河川事務所	辻野、南部、永島、朴
河川レンジャー事務局	深澤、瀬戸口、服部、髙山　　（敬称略）

１．議事内容

（１）審議

１）令和７年度の運営体制について

２）河川レンジャー活動の成果と課題及び令和７年度河川レンジャー年間活動計画（案）

３）令和７年度新規河川レンジャー展開計画（案）

（２）報告

淀川管内河川レンジャー代表者会議開催の報告

（３）その他

今後のスケジュール

２．決定事項

○　河川レンジャー大阪ブロック運営会議の代表河川レンジャーおよび副代表河川レンジャーが以下のとおり決定された。

役職	任期	氏名	所属等
運営会議代表 河川レンジャー	１年間	伊藤　茂	毛馬出張所管内河川レンジャー
運営会議副代表 河川レンジャー	１年間	道場　明子	枚方出張所管内河川レンジャー

○　大阪ブロック運営会議に所属する１２名の令和７年度河川レンジャー年間活動計画が委員の確認を経て決定された。会議における意見は、事務局でとりまとめ、河川レンジャーに伝える。

○　福島出頭所管内の兒玉レンジャーの令和７年度年間活動計画は、実施時期等、計画の再考が必要なため、事務局から修正に関する意見を伝え、再提出を依頼する。提出された計画は、運営会議代表と事務局で確認し、決定する。

○　令和７年度新規河川レンジャー展開計画（案）が委員の検討を経て、以下のとおり決定された。

令和７年度淀川管内新規河川レンジャー展開計画　大阪ブロック

管内	募集人数	重視する活動区域	活動内容等
福島	２名	全域	必要であると考えられる分野は「治水・防災」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」「川づくり・人づくり」です。 なかでも、自然災害への備えについて地域のニーズが高く、継続的に広く活動が展開されている「治水・防災」分野、不法投棄対策など川の課題解決に向けた取り組みの推進が求められている「維持管理」分野の２分野を重視します。
毛馬	１名	全域	必要であると考えられる分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」「川づくり・人づくり」です。 なかでも、淀川の生態系の保全を目的とした活動の継続が必要である「環境保全」分野、不法投棄対策など川の課題解決に向けた取り組みの推進が求められている「維持管理」分野、地域住民からのニーズが高く、舟運の歴史を伝える語り部など活動の充実を図るため「歴史・文化」分野、地域と連携した川づくりに継続して取り組むため「川づくり・人づくり」分野の４分野を重視します。
枚方	１名	寝屋川市	必要であると考えられる分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」「川づくり・人づくり」です。 なかでも、自然災害への備えや淀川の環境、安全な利用についての学習などで地域から高いニーズがある「治水・防災」分野、「環境保全」分野、「河川利用」分野、点野ワンドにおいて地域と連携した川づくりが継続的に実施されている「川づくり・人づくり」分野の４分野を重視します。
高槻	１名	全域	必要であると考えられる分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」です。 なかでも、自然災害への備えについて地域のニーズが高く、継続的に広く活動が展開されている「治水・防災」分野、自然観察会や環境学習が活発であり、今後は、淀川の生態系の保全を目的としたワンドの外来種防除の取り組みも必要と考えられる「環境保全」分野の２分野を重視します。

３．主な意見等（〇意見、⇒直前の意見に関連した議論）

（１）審議

１）河川レンジャー活動の成果と課題及び令和７年度河川レンジャー年間活動計画（案）

①桑村レンジャーの活動

○　「歴史まちあるき」は、地形や歴史等から人々の川への関心を高める手法がすばらしい。これまでの活動に敬意を表し、感謝を申し上げる。

○　新北野再生ヨシ原で行ったヨシの生育調査の結果は貴重なデータなので、まとめて淀川河川事務所へ提出してはどうか。

②兒玉レンジャーの活動

○　9 月の矢倉緑地公園での探鳥会は、暑い時期で、最寄り駅から矢倉緑地公園までは、日陰がなく片道 3～5 ㎞程度移動することから、熱中症を発症する恐れがあり、時期の見直しが必要と考える。また、連携団体との役割分担の明確化が必要である。

○　防災学習は、実現に向けて年間スケジュール・実施時期を計画に定めておく必要がある。

③伊藤レンジャーの活動

（説明補足）赤川ワンドは、近年、生き物が減少しており、原因を調査したいと考えている。

○　平常時の船着場の活用として、小学校における地域学習・総合学習等の一環で舟から川を観察する活動が考えられる。乗船にかかる費用を学校側で負担できるかが問題だ。

⇒校長裁量の予算（大阪市立学校での名称：校長経営戦略支援予算）があり学習に使えるかもしれない。事前に学校側と調整してみてはどうか。

④岸田レンジャーの活動

○　河川環境を保全する取り組みも活動内容に含めるよう検討してほしい。ワンドの外来水草の除去作業は、春～初夏（4～6 月）に実施することで、大繁茂による環境劣化を防ぐことが期待できる。

⑤道場レンジャーの活動

（説明補足）これまで自治体の行事への協力や主催活動を通じて、参加者（河川利用者）の意見を集めようとしてきたが、行事を運営することに注力してしまい、思うように意見が集められなかった。そこで、今年度からは、河川利用者の意見を集める調査活動を新たに計画し実施している。今後も

継続していく。

○　集めた意見をまとめて、課題の改善につなげる取り組みを検討する際には、河川レンジャーアドバイザーとして協力したい。

○　堤防天端等の整備も進み、今後も河川区域を自転車で走行する方が増えると思われるので、引き続き、活動に取り組み、課題の改善につなげてほしい。

⑥杉本レンジャーの活動

（説明補足）地域から依頼を受けて淀川のヨシについての学習会を実施した。今年度は、鵜殿ヨシ原の見学が実現し、依頼元のこども園から大変喜ばれた。地域の小学校からも川について学ぶ授業の依頼があり、今後も対応していきたい。

⑦小林レンジャーの活動

○　いずれの活動も、活動実施予定月が年間スケジュールと齟齬があるため、実施時期の確認が必要ではないか。

２）河川レンジャー活動を進めるうえでの留意点

①河川レンジャー活動のあり方

○　河川レンジャーが、活動を通じて地域住民（河川利用者）の意見を把握し、意見をふまえた活動を計画・実施することは重要だ。地域住民との交流（意見聴取）を通じて川の課題解決をめざすのが、河川レンジャーのあるべき姿であり、全員がこのことを意識して活動に取り組んでほしい。

②ワンドの保全

○　淀川では、過去に整備されたワンドの機能を回復するため再整備が進んでいる。再整備では、ワンド周辺の樹木を伐採しているが、樹木はすぐに大きくなる。今後は、唐崎ワンドの整備も予定されている。過去の状況を踏まえ春に樹木の切り株や根元から萌え出る若芽を剪定し、再樹林化を防ぐことが大切だ。活動を通じて伐採の必要性を地域住民（参加者）に伝え、地域と連携した維持管理に取り組んでほしい。

②外来種の防除

○　活動の際には、外来種を駆除する目的を参加者に説明して理解してもらうことが大切である。環境保全の目的であっても生き物を殺すことに反対する方もおられるので十分配慮して活動してほしい。また、参加者で反対意見をもつ方がいた際に、どう対応するか、事前に準備しておく方がよい。

○　関連する法令（外来生物法や動物愛護管理法　等）を遵守して防除活動に取り組むこと。また、活動をするうえでわからないことがあれば、生物多様性センター等に、事前に相談してほしい。

④学校・地域と連携した活動

○　新任の河川レンジャーは、地域で活動する先輩レンジャーの活動を参考に地域と連携して活動を進めてほしい。

○　学校との連携は、教職員が異動してもつながりを継続できるようにしておくことが大切である。。

２）令和７年度新規河川レンジャー展開計画（案）

○　今後の活動展開で、福島出張所管内においては、環境保全分野の活動も必要ではないか。左岸側で河川工事が実施されており、活動できる範囲が限られているが、工事後の環境再生も見据えて河川の自然環境を保全する活動や自然観察会等を通じた環境学習も必要と考える。

⇒地域に必要であると考えられる活動と、河川レンジャーの活動状況から必要と考えられる活動の２つの視点から整理し、特に重視すべき「治水・防災」、「維持管理」分野に取り組む河川レンジャーを募集する計画とした。地域ニーズ等もふまえバランスよく活動を展開してほしい。

○　十三地区では、淀川区によるかわまちづくりが進められている。自然と交流するゾーンも設けられる計画となっている。

以上